

Clinical Cloud by MEDIPAL には各領域を牽引するオピニオンリーダーによる良質な医療情報を掲載しています。

Clinical Cloud

かわらばん

最新動画
情報

登録無料



第42号

令和4年9月1日

発行元 株式会社Doctorbook
東京都千代田区内神田一丁目14番10号

vol.
042

POINT 1

夏場の脳梗塞「夏血栓」と熱中症の共通点

POINT 2

DAPTの有意性、rt-PA静注療法とMTの発達

POINT 3

地域連携が脳卒中治療の要



脳卒中

急性期から回復まで 脳卒中診療の全て

▶ Part1 15:36
▶ Part2 14:13
▶ Part3 11:51

夏場に気をつけるべき脳卒中診療

夏の脳梗塞の症状は、熱中症と共通する症状が多いことから間違われることがあり、いずれも脱水が大きな誘因または原因となります。

脳梗塞の転帰は、一昔前と比べると大きく変貌しており、rt-PA静注療法と機械的血栓回収療法の発達がその大きな要因の一つにあります。

現在、脳梗塞治療において、抗血小板薬2剤併用療法(DAPT)は標準治療となっています。抗血栓薬の選択と継続は専門家の腕のみせどころであると橋本先生は考えています。

一方で、慢性期は可能な限り単剤療法を選択することが重要であり、さらに転院先でも治療継続を確実にすることが重要になります。

現在の本邦において、rt-PA静注療法と機械的血栓回収療法(MT)をスムーズに行える連携体制構築が、脳卒中診療の要となります。熊本県の連携体制確立に従事された橋本先生にポイント伺いました。

令和時代にも脳卒中診療の課題は数多く残されています。脳卒中診療の課題と展望について、詳しく解説いただきました。



済生会熊本病院
脳卒中センター 特別顧問

橋本 洋一郎先生

●専門分野
脳卒中、頭痛、リハビリテーション、医療連携、神経症候学、禁煙、不眠症

●所属学会
日本脳卒中学会(専門医、理事、幹事、代議員、評議員)、日本神経学会(専門医、代議員、指導医)、日本神経治療学会(評議員) 他多数



POINT 1

高尿酸血症の病型に沿った尿酸降下薬の投与

POINT 2

合併症を有する無症候性高尿酸血症の治療の6・7・8ルール

POINT 3

痛風を合併症と一緒に治療することでアドヒアランスを改善



高尿酸血症 痛風

高尿酸血症・痛風の 治療ガイドライン 改定委員長による解説

▶ Part1 8:14
▶ Part2 13:54

高尿酸血症・痛風の治療の今 〜ガイドライン第3版を踏まえて〜

ガイドラインの改訂委員長をされています久留先生による、高尿酸血症の治療に関する講義です。ガイドラインに記載されている治療アルゴリズムといくつかのクリニカルエッセイ(CQ)に関して解説頂きました。

Part1では、痛風結節を有する患者さんに対しては血清尿酸値を6mg/dL以下にすること、痛風発作に対してはNSAIDs、グルココルチコイド、低用量のコルヒチンの使用が推奨されている点について解説頂いています。

Part2では、合併症を有する無症候性高尿酸血症の治療、また最新のガイドラインで腎外排泄低下型の病型が加えられたこと、病型分類による治療薬の選択について解説いただきました。

最後に、痛風外来のアドヒアランスの向上には、合併症の治療と同時にすることが重要であることを述べられています。是非ご覧になって下さい。



独立行政法人 国立病院機構
米子医療センター 病院長

久留 一郎先生

●専門分野
高尿酸血症、痛風、高血圧診療ならびに再生医療

●所属学会
日本痛風・尿酸核酸代謝学会認定痛風医、副理事長、日本高血圧学会 指導医、専門医、評議員、日本心血管内分分泌代謝学会 評議員 他多数



腎性貧血

腎性貧血治療の意義

6:54



注目動画1

- POINT 1 保存期CKDにおいて腎性貧血治療を行った患者では腎生存率は良好である
- POINT 2 腎性貧血の要因として「鉄の困り込み」が深い関りとして、近年注目されている
- POINT 3 造血には鉄が重要な役割を果たすため、HIF-PHIが有用な選択肢の一つである

CKDではCKDステージが進行するほどHb値が低値の患者さんが多く、貧血治療を行うことで腎機能障害の進展を抑制できることが報告されています。本動画では、腎性貧血治療の意義と要因、について紹介させていただきます。治療選択肢の一つとして、HIF-PHIであるエベレンゾをお役立てください。

提供: アステラス製薬株式会社

高血圧

医師会員限定動画

降圧の重要性と降圧薬の作用機序を考慮した高血圧治療

8:44



注目動画2

- POINT 1 厳格な降圧の重要性
- POINT 2 厳格な降圧に向けた降圧薬の選択肢
- POINT 3 ミネブロの臨床成績

高血圧治療の真の目的は脳心血管病の予防であり、そのためには厳格な降圧が重要である。厳格な降圧目標を達成するためには、同じ降圧薬の増量よりも異なるクラスの降圧薬の併用が有用である。ミネブロの国内第III相臨床試験 長期投与試験の結果より、ミネブロをRA系阻害薬に併用することで有意な降圧が認められたことから、RA系阻害薬とMRブロッカーの降圧作用機序は異なることが示唆された。厳格な降圧のためには作用機序を考慮した高血圧治療を進める必要があると考える。

提供: 第一三共株式会社



国際医療福祉大学医学部
臨床検査医学 主任教授
下澤 達雄 先生

がん検診

胃がん検診の現状と課題

-胃内視鏡検診を中心に-

Part1
13:10
Part2
11:06



注目動画3

- POINT 1 現役世代のがん検診として職域検診が重要視されている
- POINT 2 職域がん検診では精度管理体制に問題がある
- POINT 3 胃内視鏡検診では医療資源の地域格差が課題

がん検診は国のがん対策の要であり、地域・職域ともに科学的根拠に基づくがん検診の実施と厳格な精度管理が求められています。本コンテンツでは、宮城県対がん協会がん検診センターの加藤先生に職域のがん検診や胃内視鏡検診の現状と課題についてお話をいただきました。

公益財団法人 宮城県対がん協会
がん検診センター 所長

加藤 勝章 先生

●専門分野: 胃がん検診

